

フレンドリー

FRIENDLY



令和6年度 派遣事業



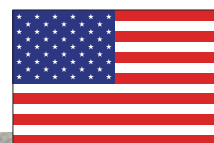
オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣



市長さん、議員さんと
【グレンアイラ市役所内のアートギャラリー】



オーストラリアの若者の間で流行っているダンス
【グレンアイラカレッジにて】



米国ビーバートン市、ユージーン市
研修派遣



マルトノマの滝



ドイツ・シュツットガルト市研修派遣



シュツットガルト市役所



ミュンヘンのオクトーバーフェストのパレード

第8回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣

8/20～8/28(9日間) 小・中学生10人、引率者3人

日程表

- 8/20 大垣出発、成田空港よりメルボルンへ
- 8/21 メルボルン到着。メルボルン見学、ホストファミリーと対面
- 8/22 コーフィールド小学校と市役所訪問
- 8/23 Glen Eira College (中高一貫校)訪問【1日目】
- 8/24、8/25 ホストファミリーと過ごす
- 8/26 Glen Eira College (中高一貫校)訪問【2日目】
- 8/27 ホストファミリーとお別れし、シドニーへ。シドニー見学
- 8/28 日本へ向けて出発し、夜大垣到着



▲グレンアイラ市役所



大垣との交流の象徴
「日本庭園」



高木 彩衣
(東中学校2年)

コーフィールド小学校

コーフィールド小学校は日本語と英語のバイリンガル小学校です。6年生の美術の授業に参加しました。作品制作中に日本語で「趣味は何ですか?」や「好きな色は何ですか?」などと知っている日本語で話しかけてくれて嬉しかったです。



▲美術の授業で交流



▲学校の入り口にあった看板
日本語と英語で書かれています

グレンアイラ市役所

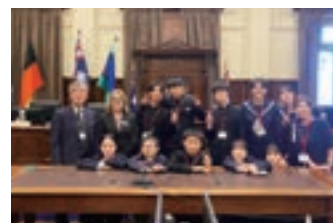
市役所では、グレンアイラ市が所蔵している美術品を見せていただきました。オーストララらしいはっきりとした色遣いの作品が多く、見ていてとても楽しかったです。プレゼンでは、内容がきちんと伝わっているか心配でしたが、市長さんが笑顔になったときには緊張も解け、ほっとした気持ちになりました。



谷口 暖季
(小野小学校6年)



▲大垣との交流の歴史が詰まった
「OGAKI ROOM」



▲140年の歴史がある市役所内の議場

Glen Eira College (中高一貫校) 訪問



羽賀 陽優
(西部中学校3年)

2時間目と4時間目の後に長い休み時間がありました。私はホストマザーからもらった果物を食べたり、サッカーをしたりして休み時間を過ごしました。一緒にサッカーをした人は、さまざまな国の人がいて、オーストラリアの多文化社会を実感することができました。



マットで人を橋渡しする
スリル満点なゲーム



▲グレンアイラカレッジ(中高一貫校) ▲体育の授業にて

事前研修でやってきたことを発揮でき、本番ではいいプレゼンができました。劇では事前研修でやってこなかったものを速攻でアレンジしてやったり、振付も自分で考えたりして、より良いものになりました。見て下さった生徒さんも笑ってくれて、やっていた僕たちもうれしくなりました。



豪州はIT先進国で、コンピューターサイエンスの授業に力を入れているそうです。全ての授業にアクティブラーニング、自習する形式が共通しています。丸テーブルを囲み、対話やディスカッションを重ね、生徒同士で教え合います。教師の役目はファシリテーターです。生徒が一人で高度なプログラミングをする技術と、皆が当たり前前にアイデアを生み出す質の高さに驚きました。



高木 彩穂
(鶯谷中学校3年)



内海 昭吾
(西中学校3年)



▲英語で「桃太郎」の劇を披露
大変盛り上がりしました!



▲校長先生お手製のハンバーガーランチ
おいしかったです!



▲グレンアイラカレッジの生徒さんと

メルボルン

セントパトリック大聖堂を訪れました。ハリーポッターの映画に出てくるホグワーツ城と同じゴシック建築で、おごそかでとても迫力がありました。一歩中へ入ると、高い天井、美しい床のモザイクやステンドグラス、大きなパイプオルガンなどに圧倒されました。暖房がついているわけではないのに暖かくて、なにか心が安らぐような温かい気持ちになりました。



▲メルボルンの象徴、
フリンダース・ストリート駅

ハリーポッターの
お城みたい...



▲セントパトリック大聖堂

シドニー

オーストラリアにはかつて多くの囚人がいて、その人たちが全て手作業で巨大なトンネルを作っていたことを知りました。今では考えられないようなとつとなく長い時間をかけて完成させたものには、様々な面から深く考えさせられました。今のシドニーはその人たちの努力あってこそのものであり、今後の世代に伝えていかなければならない大切なものです。外観はそのままにして内装のみをリフォームした家や店があり、伝統的な風景を残していく工夫があることに感動しました。



河合 皓生
(赤坂中学校3年)



▲世界遺産、オペラハウス

フェリーから見たハーバーブリッジと
オペラハウスは絶景!!



ホストファミリーとの思い出と研修を通して

ホームステイでは、日本の文化や良さを伝え、またオーストラリアについてたくさん教わり、学ぶことができました。英語での会話は、伝えようとする気持ちがあれば、文法が完璧に話せなくても、簡単な英語でもコミュニケーションをとることができると分かりました。国や文化が違ってても、理解し合おうとする気持ちがあれば、お互いに分かり合えたと感じました。



岩田 真歩
(北中学校3年)



ホストファミリーのみなさん、
ありがとうございました!!



古川 颯人
(赤坂中学校1年)

実際に家族の一員として過ごしたことで、普段の生活を知ることでもできました。異文化交流を通して現地の方々とながらうことができ、また外から見た日本の素晴らしさを改めて感じました。この研修を通してコミュニケーションの向上はもちろん、国際的な視野も広がったし、異文化や異なる価値観に触れたことで、自分の考え方が変わり、新たな視点も獲得することができました。

週末に動物園に連れて
行ってもらったよ!!



塩谷 ひなた
(興文中学校2年)



ホームステイを通して、オーストラリアのことがもっともっと大好きになり、日本とは違う食文化や、考え方にとても刺激をもらいました。一番の大きな壁であった言語の違いも、気付けば異なる言語でのコミュニケーションを楽しんでいる自分がいました。この経験から国籍の違う人とのコミュニケーションをとることの楽しさを強く感じ、今よりももっと自分の思いや感情を自由に自分らしく表現できるようになりたいという新しい目標が出来ました。



団長 石井 昭久
(日新小学校校長)

団員たちにはこうして得た視野の広がりを将来何に生かすのか、話せるようになった英語でどのような社会貢献をしていくのかという、今、この時期に国際交流をすることの目的は何なのかを振り返ることのできる研修でもありました。



総務 守屋 栄作
(小野小学校教諭)

最も驚かされたのは、メンバーの理解力と想像力でした。アドバイスを柔軟に取り入れ、形にする力は、大きな強みだったと思います。あきらめずに工夫して伝える姿勢を研修の中で培っていきました。



総務 吉安 三恵
(国際交流協会職員)

継続した交流には「人と人との関係」が大切です。顔の見える関係が、次への交流につながっていきます。団員がホストファミリーをはじめとするグレンアイラ市の人々とながらう縁も、きっと未来の両市の交流の礎の一つとなると思います。

第13回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣

9/19～9/27(9日間) 中学生10人、引率者3人

日程表

9/19	大垣出発、羽田空港周辺ホテルに宿泊
9/20	ドイツへ出発、ミュンヘン市内ホテルに宿泊
9/21	ミュンヘン市内見学後、シュツットガルト市へ ホストファミリーと対面
9/22	ホストファミリーと過ごす
9/23	学校見学、ルードヴィヒスブルク城見学
9/24	テュービンゲン市内見学
9/25	シュツットガルト市役所訪問、市内見学、お別れ会
9/26	ホストファミリーとお別れし帰国
9/27	大垣到着



▲シュツットガルトの街並み
電信柱はありません(地下に埋設)



▲シュツットガルト市の人口は約63万人
メルセデスベンツなど自動車関連産業が盛ん

ミュンヘンからシュツットガルトへ

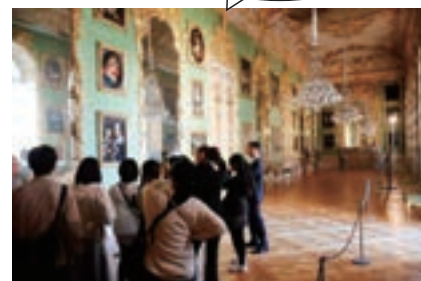


加納 あかり
(星和中学校2年)

羽田空港から14時間ほどかけて夕方にミュンヘンに到着しました。翌日の午前中はミュンヘン市内を見学しました。レジテンツ博物館は、繊細だけど豪華な内装、装飾品で埋め尽くされていて美術館のようでした。午後にシュツットガルト市にバスで向かい、ホストファミリーの皆さんと対面しました。



オクトーバーフェストの
パレードに遭遇



レジテンツ博物館

ホストフレンドの通う学校を見学



伊藤 加純
(南中学校1年)

9月23日の午前中は、各団員のホストフレンドの通う高校を訪問し、僕はケーニギン・シャルロッテ高校を見学しました。日本でいう小学5年生から中学3年生も通っている規模の大きな学校です。僕は数学、英語、化学の授業に参加しました。ノートやタブレットにメモを取っている学生がいましたが、先生が一度も板書をしていないことに驚きました。また、学生が自分の意見を時間をかけて発表している場面もありました。



みんな私服でした。
驚き!



松岡 晃
(江並中学校2年)

ドイツでは初等教育から
9年間で義務教育

私は、ヘルダーリン高校などを見学しました。社会の授業に参加しましたが、授業が終わるとホストフレンドの友達と話しかけてくれました。言語の壁がありながらもジェスチャーで必死に伝えようとしてくれたり、笑顔で話を聞いてくれたり、フレンドリーな学生が多くとても嬉しかったです。



▲学校の前でホストファミリーと集合写真

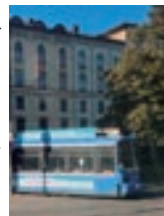


安田 百花
(東中学校3年)

日本の学校と違う
ところがいっぱい...

私は、セント・アグネス・ギムナジウム・シュツットガルトという同市最大規模かつ唯一の女子校へ行きました。私は美術の授業に参加しました。先生も生徒もタブレットを使用して、プレゼンを聞いたあと意見交流をするというものでした。学生は皆それぞれ好きな服を着て、ネイルを塗って、髪型も様々でした。個々のおしゃれを楽しんで自由に自分を表現できていて素敵だと思いました。でも授業は真剣に受けていました。

路面電車を使って
通学します



ホストフレンドと
ピース!

異なる建築様式が
融合しています



遠藤 賢志郎
(北中学校3年)



ルードヴィヒスブルク城見学

高校見学の後、電車でシュツットガルト市郊外にあるルードヴィヒスブルク城に向かいました。1704年から30年かけて建てられた欧州最大級の建築です。合わせ鏡を効果的に使った部屋、ヨーロッパ最古の城内劇場など深く記憶に残りました。現地研修で実際の建物を見て、建築物が宗教や複雑な歴史背景と密接に関係していることを知ることができました。



▲駅までの帰り道、雷雨になりました
研修中、はじめて雨具を使いました

テュービンゲン市内見学



伊藤 慧
(南中学校2年)



▲カラフルで明るい街並み



▲ネッカー川の舟下りを体験。立てかけられた板に背をまかせ、船頭さんが棒で川底をついて進みます

9月24日は朝から電車に乗ってテュービンゲン市に向かいました。この日だけでなく、シュツットガルト市にいる間、いつもホストフレンドが同行してくださり、交流しながら市内見学をしました。テュービンゲンは1477年創立のテュービンゲン大学で有名な街として知られていて、街のあちこちに大学関連の施設が建てられていました。中世の面影を残す旧市街を見学しましたが、人々は生き生きと楽しそうに生活し、とても活気のある街でした。

ホストファミリーとの思い出



▲市の紋章



青木 彩華
(東安中学校2年)

帰国後もメールのやり取りをしています。新しい発見の連続です。



最初は不安で大丈夫かと心配だったけれど、初対面の時、ホストフレンドが「こんにちは」と挨拶してくれてホッとしました。ハイデルベルクに行ったり、日本のアニメを一緒に見たり、私にすぐ優しくしてくださり、楽しませようとしてくれました。ホストファミリーとドイツの日常生活を体感でき楽しかったし、この経験は私にとってかけがえのない大切な思い出になりました。



三輪 有希
(西中学校2年)

テレビ塔に連れて行ってもらったり、ホストフレンドとアニメを見たり、家族みんなでボードゲームをしたりしました。また、習慣や遊び、ごみの分別など日本との違いが見つかり驚きもいっぱいでした。

この研修を通し、日本とは異なる文化を様々な視点から学べたことはもちろん、海外を知ることや海外の人と交流することの大切さを、そして日本の良さをも実感させられました。ホストファミリーとの出会いを大切に、今後もずっと交流を続けていきたいです。

ランドマークの
テレビ塔



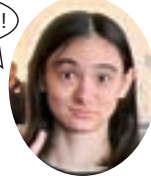
吉田 杏
(南中学校3年)

日本の家庭料理を食べてもらいたいと思い、ホストフレンドと一緒に味噌汁を作りました。美味しそうに食べてくれたので安心しました。街を行き交う人々を見て、肌や目、髪の色、宗教が異なる人たちが楽しそうに話していたことが印象に残りました。それぞれの個性や文化、宗教を尊重して共生している姿を目の当たりにして感銘を受けました。

赤味噌を使いました。少し濃いかも...



ダンケシェン!



樋口 恵濃
(東中学校3年)



▲217mのテレビ塔でホストファミリーとホストフレンドの誕生日パーティーに参加したことが思い出に残っています。ドイツの伝統的なスタイルのパーティーで、お父さんのスピーチのほか、音楽ありダンスありの楽しい時間でした。ホストファミリーに温かく迎え入れていただいた5日間は、人生のすべてがギュッと凝縮されたようなとても濃い時間になりました。最高の経験と愛を、本当にありがとうございました。

お別れ会



▲ホストファミリーの前でよさこいソーランを披露しました



▲マウルタッシェ(パスタ料理)

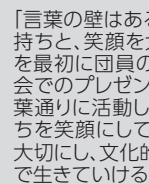


福笑いに挑戦!



団長 富田 泰仁(北中学校校長)

現地研修を終え思うことは「人は貴重な経験によって、ものすごいスピードで成長する」ということです。異文化コミュニケーションを通し、団員の皆さんは、「自分を信じて行動すること」で育てる「自信」、「相手の思いを感じて行動にまで移すこと」で育てる「感動」によって、成長することができたと思います。



総務 鈴木 勇作
(東中学校教諭)



総務 小竹 英紀(国際交流協会職員)

「言葉の壁はあるけれど、一生懸命に伝える気持ちと、笑顔を大切にしていこう」という言葉を最初に団員の皆さんに伝えました。お別れ会でのプレゼンテーションでは、皆が、その言葉通りに活動し、その姿勢が会場にいた人々たちを笑顔にしていました。この姿勢を今後も大切にし、文化的違いを認め合い、人々と笑顔で生きていける人になることを願っています。

団員の皆さんが現地研修を通して、海外で生活することの一端を体感したと同時に、住み慣れた日本から送り出してくれた人々たち、助けてくれた人々たちのありがたみに少しでも気づくことができたらうれしく思います。



▲ホストファミリーのみなさんと

第6回大垣市高校生米国オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣

10/10～10/18(9日間) 高校生10人、引率者3人

日程表

10/10	大垣出発 ---日付変更線---
10/11	ビーバートン市到着 コロンビア川渓谷(マルトノマの滝他) ユージーン市へ移動し、ホストファミリーと対面
10/12、10/13	ホストファミリーと過ごす
10/14、10/15	高校訪問
10/16	ビーバートン市役所、警察署、サンセット高校
10/17	オレゴンを出発し、日本へ帰国
10/18	大垣到着



▲ビーバートン市のブリッグ市議会議員と



10月はハロウィーン色で街中にパンプキンが飾ってありました

Beaverton ビーバートン市



北村 周平
(大垣北高校2年)

自分の市役所のイメージとは違い、壁がほとんど一面ガラス張りでもとてもおしゃれで、かつ開放的だと感じました。このガラス張りであるのは、職員にとって開放的で、動きやすい空間を整えるためのようです。その後、市役所の会議室で、街をよりよくするためにアイデアを一人一案ずつ提案する体験をしました。大垣でも、このようなディスカッションをしたことがなく、面白かったです。



▲警察署にて



▲議員さんと市職員さんとディスカッション

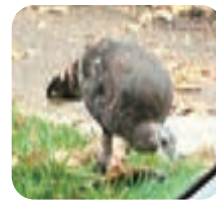
逮捕？
体験です！

Eugene ユージーン市

ユージーン市は自然が豊かなことで知られています。町のはずれには多くのロッククライミング専用の崖があり、大人から子ども、学校帰りの学生まで多くの人でにぎわっていました。紅葉シーズンであったため、街の木々は色とりどりに染まりとてもきれいで、通りを歩いているだけで良い気分になりました。また、いたるところに七面鳥に似た大きな鳥がいました。日本では見ることのできない光景に興味と驚きが押さえられなかったです。



下野 明日香
(大垣北高校1年)



▲七面鳥に似た大きな鳥



▲2023年に完成した新しい市役所

高校訪問 1日目:ホストシスター・ブラザーの一日を体験 2日目:日本語クラス



中野 優愛
(大垣北高校2年)

【シェルドン高校】数学の授業を受けた中で、私が特に感動したことは、授業中に分からないところがあれば、みんな挙手をして授業中でも質問をしていたことです。日本では授業が滞らないように質問は授業後にすることが多いです。しかし、アメリカでは先生の話をつたただけの一方的な学びとは違い、生徒と先生が一体となって、分からないときは、その時にディスカッションしながら解決していく感じでした。



アメリカの高校生が
作ってくれたケーキ



▲お昼休みの持ち寄りパーティー



▲学校生活についてのプレゼン

コロンビア川渓谷

マルトノマの滝は、189mの落差があり、アメリカで2番目に大きな滝です。観光客が絶えず、大自然を一気に感じることでできる観光スポットになっていました。日本に生息する植物とは違い、全体的に大きいサイズで、楓の葉で足元が埋まっており、自分の身長15倍以上ある木々を見上げたりして楽しんだのが印象に残っています。



▲絶景のコロンビア川を見ることのできるクラウンポイント(対岸はワシントン州)

すごい強風でした



横居 杏瞳
(大垣北高校1年)



清水 菜祺
(大垣東高校2年)

【サウスユージーン高校】大学と同じように、受ける授業を自由に選ぶことができ、また日本のようなホームルームがないので、比較的自由に高校生活を過ごしていると聞きました。そこが日本の高校との大きな違いだと思います。また、授業までまだ時間があつたので、食堂近くにあるドリンクバーに行ってスムージーを買いました。ここで一番驚いたことは、店員が学校の生徒であることです。そこで何時間が働き、また授業に行くそうです。

ホームステイ



ホームステイに来るまでは、うまくコミュニケーションが取れるか不安でとても緊張していました。しかし、自分から進んでコミュニケーションを取り、いろいろなことに挑戦するという目標の下、たくさんの人に支えられながら、私自身大きく成長することが出来たと思います。たくさんの発見と体験もあり、この研修での思い出は私の最高の宝物になりました。



加納 里菜
(清美高校2年)

特に印象に残っていることは、休日にジャコランタンを作ったことです。まずカボチャ畑に行って大きなカボチャを採りました。家に帰ったら、ジャコランタンを作る専用のキットがすでに用意されていました。疑問に思い尋ねてみると、毎年恒例の行事で、いつも家の前に飾っているそうです。今まで作ったことも見たこともありませんでした。アメリカと日本の違いを体験することができました。



▲ハロウィンの象徴ジャコランタン作り



西脇 瑠菜
(大垣南高校1年)



私の探求テーマ



多賀 琳太良
(大垣北高校2年)

【アメリカ人の地元愛】アメリカに到着した際、まず目に入ったのは、あらゆる場所に掲げられている国旗やオレゴン州の旗でした。アメリカ人の地元愛が強い理由を2つ発見しました。1つ目は、アメリカ人が先祖から受け継いだ自分の国や州への誇りや伝統を強く意識していることです。2つ目は、スポーツの影響です。この研修を通じて、日本人が地元や国について考え、誇りを持つことの大切さを改めて感じました。



▲オレゴン州の旗



吉田 来麒
(大垣東高校2年)

【雑談】アメリカの人たちは雑談が好きだと聞いていたので、積極的に話しかけました。エレベーターや信号待ちの時間など、隙間時間ができるとおしゃべりすることが多かったように感じます。一番日本との違いを感じたのは飲食店の接客です。ファーストフード店で、チリサンドを頼むと「辛いものが好きなのかい?」と質問をしてくれたり…。ただオーダーをとって商品を提供する日本の接客と違って、アメリカの店員さんたちの対応には温かみがありました。

【学校の掃除は誰がすべきか】僕がアメリカの高校生と話し合ったテーマです。アメリカでは清掃員が掃除しており、日本では生徒自身が掃除しています。「生徒がすべき」という意見として、清掃員のやり方はあまりよくない、使っている人が管理するのは当然というものがありました。「清掃員がすべき」の意見は、単純にめんどくさい、掃除の時間を別のことに使いたい、というものでありました。どちらにも良い悪いがあり、一度互いの掃除方法を逆にしてみたいと思いました。



松村 駿英
(大垣北高校1年)

学校の掃除についてアメリカの高校生と話し合い…



▲ビーバートン市役所で市のニットキャップをかぶって「はい、チーズ!」



団長
今川 喜章
(国際交流協会副理事長)

若い人たちが短期間で著しく成長してゆく姿を目の当りにし、とても驚き感動しました。皆さんがこれからも今回の経験を糧にして、世界で活躍できるグローバルな人材に成長していくてくれることを大いに期待しています。



総務
大橋 浩
(大垣東高校教諭)

派遣前はやや不安な表情でしたが、ホームステイを体験してからは、自信を持って会話に取り組めるようになっていました。柔軟性のある年頃の生徒たちは、きっかけさえあれば大きく成長するものです。この姿を見ただけでも、この研修は成功したと感じました。



総務
吉安 三恵
(国際交流協会職員)

団の目標は「Expanding our view of the world!」ホームステイや学校訪問での交流を通して、たくさんを感じ、吸収し、視野を大きく広げられた研修になりました。



国際理解ワークショップ「ブラジル編」

1/19 (日) スイトピアセンター 料理実習室 参加者：22 人

大垣市には 49 か国出身の方が在住しています。海外の食文化紹介を通して、日本人と外国人が交流するイベントの第 2 弾を行いました。市内にある定住外国人学習センターで日本語を学習している 4 人を講師に迎え、ブラジルの紹介とブラジルの大人気料理「パステウ」作りに挑戦しました。日本人 15 人、ブラジル人 6 人、中国人 1 人が参加し、楽しく会話をしながら、グループで協力して作ることができました。講師との交流に加えて、参加者同士の多文化交流もでき、楽しんでいただけたようです。



▲グループで楽しく料理作り



▲炒めたりき肉を皮で包み揚げた料理「パステウ」。トマト、キュウリなどで作るさっぱりしたソースによく合います！

《講師の話（一部抜粋）》

- ・「パステウ」の起源は諸説あるが、ブラジルの食材を使って春巻き風にアレンジしたもので、日本人移民が広めたと言われている。
- ・1908 年に最初の日本人移民がブラジルに渡り、現在では約 270 万人の日本人とその子孫が住んでおり、海外で最大の日系人社会である。
- ・日系人コミュニティでは、盆踊りや太鼓教室が開催され、日本文化が継承されている。



▲講師のクリスチャンさん、アラナさん、マルシアさん、ヤスミンさん（左から）



《参加者の感想》

- ・同じテーブルでブラジルの方と話せる時間も良かった。
- ・日本人の移民がブラジルに多いことを知りませんでした。
- ・パステウも日本人の移民から生まれた食べ物で、今はブラジルで大人気というところもおもしろいと思いました。

本事業は、(公財) 岐阜県国際交流センターの助成金で実施しました。

ボランティアの集いと感謝状贈呈

3/2 (日) スイトピアセンター スイトピアホール 参加者：31 人

NPO 法人可児市国際交流協会事務局長の各務眞弓氏を講師にお招きし、「地域でできる国際交流」をテーマにした講演会と交流会を開催しました。可児市における外国人の状況や国際交流協会の成り立ち、そして実施している事業などについて紹介がありました。その後のワークショップと交流会では、「外国人との関わり」について、グループで話をさせていただきました。「どうしたら外国人住民に自治会活動に参加してもらえるか」という声や「気軽に参加できるお茶会の提案」などがありました。参加者のみなさんにとって外国人との関わり方で参考になる話がたくさんあったようです。

可児市の取り組みも参考にさせていただきながら、これからも多文化共生事業に取り組んでいきます。



▲講師の各務眞弓氏



ボランティア感謝状贈呈

令和 6 年 4 月 1 日現在で、15 年以上当協会の国際交流ボランティアとして登録されている 7 名の皆さまへボランティア感謝状を贈呈いたしました。ありがとうございました。今後もよろしくお願い致します。

榎並	つるみ様	傍島	治美様
廣瀬	武夫様	増田	よう子様
松原	和夫様	横幕	和彦様
脇田	美和子様		



令和6年度を振り返って

【国際交流・国際理解事業】

《フレンドリーシティ派遣事業》

- ✳️ 小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣
(8/20～8/28 小・中学生10人、引率者3人)
- ✳️ 中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣
(9/19～9/27 中学生10人、引率者3人)
- ✳️ 高校生アメリカ・ビーバートン市、ユージーン市研修派遣
(10/10～10/18 高校生10人、引率者3人)

《フレンドリーシティ受入事業》

- ✳️ ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入
(5/5～5/11 高校生13人、引率者2人)
- ✳️ 中国・邯鄲市学生訪問団受入
(7/14～7/18 小・中学生7人、高校生1人、引率者2人)
- 中止 オーストラリア・グレンアイラ市学生訪問団受入

《地域国際交流事業》

- ✳️ 国際理解ワークショップ
 - ・インドネシア編 (8/18) 参加者: 19人
 - ・ブラジル編 (1/19) 参加者: 22人



▲国際理解ワークショップ
【インドネシア編】

〈(公財) 岐阜県国際交流センター助成事業〉

《国際交流ボランティア活動推進事業》

- ✳️ 日本語学習支援ボランティア講座
 - 第1期 (7/13～8/24 【全5回】) 受講者: 11人
 - 第2期 (3/2～3/30 【全5回】) 受講者: 22人
- ✳️ ボランティアの集い (3/2) 参加者: 31人

《民間国際交流助成事業》

- ✳️ 助成事業: 6団体7事業

《外国語基礎会話講座事業》

- ✳️ 英語基礎会話講座 (10/4～11/22 【全8回】)
受講者: 10人
- ✳️ フランス語基礎会話講座 (10/9～12/11 【全8回】)
受講者: 11人
- ✳️ 韓国語基礎会話講座 (1/18～3/8 【全8回】)
受講者: 13人
- ✳️ ドイツ語基礎会話講座 (1/19～3/23 【全8回】)
受講者: 13人



▲海外研修派遣団員の報告会



▲外国語基礎会話講座

《海外事情紹介事業》

- ✳️ 海外研修派遣団員の報告会
 - 小・中学生: 11/16 参加者: 76人
 - 高校生: 12/14 参加者: 46人

《国際相互理解事業》

- ✳️ 事業記録写真等の展示
(スイトピアセンターフレンドリーフロアにて)
- ✳️ 広報事業
 - ・機関誌「フレンドリー」発行 (9月、3月)
 - ・ホームページによる広報: 随時更新中

【多文化共生事業】 《地域在住外国人支援事業》

- ✳️ 地域在住外国人の日本語学習支援
 - ・ボランティアによるマンツーマン方式の日本語学習支援
学習者数: 79人、ボランティア数: 53人 (2月末現在)
 - ・にほんごおしゃべりルーム (毎週日曜日)
- ✳️ 地域在住外国人のための日本語教室
 - ・レベル1 (7/7～3/23 【全30回 (3期)】)
受講者: 計49人
 - ・レベル2 (7/7～3/23 【全30回 (3期)】)
受講者: 計36人
- ✳️ 外国人児童プレスクール＜大垣市受託事業＞
(4～3月) 参加者: 34人

✳️ ブラジル人子弟日本語学習支援事業

- ・日本語指導者派遣 (学校法人HIRO学園への派遣)
(4～3月)



▲外国人児童プレスクール

✳️ 地域在住外国人のための相談窓口の設置

- ・相談窓口 [ポルトガル語、中国語、英語]
- ・行政書士による手続き相談 (毎月第1日曜日)
- ・ポルトガル語によるこころの相談 (毎月第2日曜日)
- ・弁護士による法律相談 (法テラス岐阜共催)
(毎月第4日曜日)

✳️ 地域在住外国人のための行事・講座

- ・和服体験 (月1回) 参加者: 31人 (2月末)
- ・神輿体験 in 十万石まつり (10/13)
参加者: 13人



▲和服体験



▲神輿体験 in 十万石まつり

令和7年度 事業計画

【フレンドリーシティ派遣・受入事業】

- ＊大垣市小・中学生研修派遣（中国・邯鄲市）（9月）
- ＊大垣市中学生研修派遣（ベルギー・ナミュール市）（9月）
- ＊大垣市高校生研修派遣（アメリカ・ビーバートン市、ユージーン市）（10月）
- ＊中国・邯鄲市学生訪問団受入（7月）
- ＊ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入（10月）

【地域国際交流事業】

- ＊多文化紹介講座（8月、1月）

【国際交流ボランティア活動推進事業】

- ＊日本語学習支援ボランティア講座（7月、1月）
- ＊ボランティアの集い（3月）

【民間国際交流助成事業】

- ＊民間国際交流団体助成（随時）

【外国語基礎会話講座事業】

- ＊英語基礎会話講座（10月）
- ＊ポルトガル語基礎会話講座（10月）
- ＊韓国語基礎会話講座（1月）
- ＊中国語基礎会話講座（1月）

【海外事情紹介事業】

- ＊海外研修派遣団員の報告会（12月）

【国際相互理解事業】

- ＊事業記録写真等展示＜海外紹介、事業紹介＞（随時）
- ＊機関誌「フレンドリー」発行（9月、3月）
- ＊ホームページによる広報（<https://www.i-oiea.jp>）

【多文化共生事業】

- ＊地域在住外国人の日本語学習支援
 - ・ボランティアによるマンツーマン方式日本語学習支援（通年）
 - ・にほんごおしゃべりルーム（通年）
 - ・地域在住外国人のための日本語教室（年3期開講）
 - ・やさしい日本語講座【新規】
 - ・外国人児童プレスクール＜大垣市受託事業＞
- ＊地域在住外国人のための相談窓口の設置
 - ・相談窓口＜ポルトガル語、中国語、英語＞（通年）
 - ・行政書士による行政手続き相談（毎月第1日曜日）
 - ・ポルトガル語によるこころの相談（毎月第2日曜日）
 - ・弁護士による法律相談＜法テラス岐阜共催＞（毎月第4日曜日）
- ＊地域在住外国人のための行事・講座
 - ・和服体験（通年）
 - ・浴衣着付け体験（8月）
 - ・神輿体験（10月）
- ＊ブラジル人子弟日本語学習支援事業
 - ・日本語指導者派遣（通年）

日本語学習支援ボランティア募集！

地域に在住する外国人の方が特に困っているのは、日本語がわからないことです。当協会では、年間を通して大垣地域に暮らす外国人の方への日本語学習支援を行っており、その学習を支援してくださるボランティアの方を随時募集しています。資格等は不要、また高校生以上であれば年齢制限はありません。見学も可能ですので、興味をお持ちの方は、ぜひお問い合わせください。



編集後記

フレンドリー99号の編集を終えました。次号は100号の発行になります。

あれー、もう次は100号か!!これを機会に過去のフレンドリーを見返すと、懐かしい記事と光景を見ることが出来ました。過去に派遣された学生さんは今どうしてみえるのかな。派遣された時の経験、想い出を、今も忘れず大切にしていることと思います。

表紙には、令和6年度3か国派遣の写真を掲載しました。最初は、皆さん不

安な思いがあったようですが、ホストファミリーとも直ぐに仲良くなり、現地の学生さんとの交流、見たことがない場所に行き感動したこと、この経験を自分の将来に生かしたいこと等の感想が綴られています。派遣で得た思い、体験を大切に、時々思い出してほしいですね。ぜひご一読ください。

ボランティアの集いが開催されました。長年貢献されました皆様に敬意を表します。

平穏な社会でありますように。

大垣市在住外国人の国籍別人数表

総数:6,440(国籍数:49)
前号(令和6年9月号)との比較 185人増

	令和7年2月末	前号(令和6年9月号) 8月末人数	前号(令和6年9月号) との比較
ブラジル	2,186	2,220	-34
中国	1,126	1,112	14
ベトナム	867	863	4
フィリピン	750	704	46
韓国又は朝鮮	247	246	1
その他	1,264	1,110	154
合計	6,440	6,255	185

総人口に占める割合 4.1%

フレンドリー No.99

編集／公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会

〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地

スイトピアセンター学習館2階

TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314

<https://www.i-oiea.jp>

[E-mail]oiea@mb.ginet.or.jp



発行／2025年3月 印刷／サンメッセ株式会社

ホームページQRコード

